

Campus Today



松本歯科大学

発行所 学校法人 松本歯科大学

長野県塩尻市広丘郷原1780

☎ (0263) 52-3100

www.mdu.ac.jp

1部60円

中国 承德医学院と「学術交流・友好協力協定書」締結

承德医学院 盛婉玉党委書記一行が来学

人材育成や専門家の往来など多岐にわたる交流を期待

中国河北省の承德医学院より盛婉玉^{シヤワンユ}党委書記、霍峰^{フオフン}口腔科主任、于淑華^{ユシュア}党政弁公室主任の一行3人が6月4日（火）、本学を来訪訪問した。承德医学院は本学と本年1月14日（日）に「学術交流・友好協力協定書」を締結しており、今回の訪問は協定書締結後初めての人員交流となった。

承德医学院は中国の首都北京市を囲む河北省の北東部、承德市にある1945年創立の公立医療大学である。承德市はその四方を山に囲まれた盆地に位置し、環境は本学所在地の塩尻市に類似している。南側の急峻な山々には明代に修築された万里の長城が隔て、北へ200kmほど進むとモンゴル大草原が広がる地では、歴史上漢民族と北方騎馬民族が争奪を繰り返した。中国最後の王朝である清王朝年間（1644～1912年）には歴代皇帝が避暑に訪れ、市内には現在も多く歴史的建造物が残っている。

1983年に本学創立者、矢ヶ崎康博士が中国河北省を訪問し、当時



川原学長（左から2人目）に記念品を贈る盛党委書記（右から2人目）

の河北省衛生庁（現河北省衛生健康委員会）の傅大^{フオダ}為庁長と友好協力協定書を締結。翌1984年から本年までに河北省の歯科医師70人を研修生として受入れてきたが、そのうち9人が承德市からの派遣であった。また、2020年には承德医学院臨床学院に口腔医学の専門学部が新設され、歯科医師の養成が開始されたこと、歯科医師のキャリアアップなどの協力関係強化が望まれることから今回、協定書を締結することとなった。

一行は大学到着後、矢ヶ崎雅理^{マサキ}理事長、矢ヶ崎良子^{ヨシコ}法人本部長、矢ヶ崎怜央^{レイオウ}法人事務、宇田川信之^{ノブノリ}歯学部部長の歓迎を受け、記念撮影後、場所を学長室に移し川原一^{ハシラ}学長と面談した。川



創立者矢ヶ崎康先生像の前で記念撮影をする3人

原学長からは「両国人民が手を携え共に発展してゆく関係を永遠に続けよう」と歓迎の言葉が述べられた。幼少時代を中国東北^{ノノ}部佳木斯^{ジャムス}で過ごした盛書記の母親は佳木斯医学院の1期生で、医学院設立には川原学長の父親が携わったという希代縁もあり話が花が咲いた。

その後一行は創立30年記念棟会見室に移動し、矢ヶ崎理事長ほか本学役員と会談した。矢ヶ崎理事長は歓迎の挨拶で、創立者の案内で、実習館、ハイテクセンター、図書館、キャンパスインを見学し、翌5日（水）は病院を見学した。承德医学院附属医院の口腔科で主任を務める霍峰教授は、「松本歯科大学の教育・臨床施設は全て利用する人を中心に考え設計されている。施設などのハード面は中国も遜色無いが、細部まで考えられている設計は我々も学ばなければならぬ」と感想を述べ、「そのために私の在籍する口腔外科医局から優秀な蘭玲莉^{ランレイリ}歯科医師を松本歯科大学大学院に派遣する決定をした」と話した。蘭医師は本年4月より本学大学院に入学しており、博士学位取得のために研鑽している。

一行は5日間の日程を終え7日（金）、帰国の途に就いた。今後の更なる交流活動が期待される。

（法人 対外交流関係室 副主幹 酒井康成）

環境美化や省エネへの取り組みが評価され 信州豊かな環境づくり県民会議から表彰

本学は、長年にわたり環境保全・美化・教育活動に貢献したとして、信州豊かな環境づくり県民会議より表彰を受けた。5月22日（水）に長野市内において表彰式が開かれ、本学の廣瀬國基^{クニキ}事務局長が出席し、県民会議の鶴飼照喜^{テルキ}会長から表彰状が授与された。

同表彰は、環境美化、自然保護、地球温暖化防止などの活動とそれらに関する知識の普及・啓発に努め、特に他の模範となり、その業績が顕著な団体または個人を対象とするもので、今回、本学は塩尻商工会議所の推薦され、選ばれた。

本学は開学以来、創立者・矢ヶ崎康博士の「世界の先進国の大学のように、緑の学園の中で学生や研究者を学ばせたい」

というビジョンを具体化し、23万㎡にも及ぶ広大な敷地内に多くの樹木や季節に応じた花々を植栽して環境美化活動に取り組んできた。校舎や病院、学生寮など施設の拡充に合わせて桜を増やし、現在では約1000本の桜（ソメイヨシノ850本、八重桜150本）が楽しめる。開放的なキャンパスは、地域住民の憩いの場所にもなっている。また、2022年11月に屋外駐車場の一部を改修し、太陽光発電パネルを屋根に設置した「ソーラーカーポート」を完成させた。506台分の駐車スペースの屋根の上部に2960枚の太陽光パネルを取り付けたことにより、年間177万1518KWhの電力が得られ、大学の年間消費電力

の約30%を補うことができている。大学全体の二酸化炭素排出量を26%削減することにもつながり、環境省の「ソーラーカーポート等の新たな自家消費型太陽光の導入支援事業に関する優良事例」に認定され、同省のホームページにも紹介された。

本学では、これ以前にも消費電力削減に努め、LED照明への切り替えや電気室の変圧器の更新など、消費電力を削減するさまざまな取り組みが評価されて2015年には関東経済産業局長表彰を受けた。環境に配慮した自然エネルギーにも注目し、ハイテクセンタリ壁面へのソーラーパネル設置や、電気自動車（EV）のための充電スタンドの設置などにも積極的に取り組んできた。以上のような環境美化や省エネへの取り組み、環境負荷の少ないクリーンエネルギーの確保・活用などの実績により、今回の表彰となった。県民会議の鶴飼会長は「貴学の地域に根ざした地道な実践活動が信州の豊かな自然を守ることにつながる」とその功績を称え、廣瀬事務局長は「表彰を機に、よりいっそう環境美化や省エネに力を入れ、地域の人々に親しまれる大学であり続けたい」と話した。



県民会議の鶴飼会長から表彰状を授与される廣瀬事務局長（右）

外遊の成功に思う。岸田首相は今こそ大勝負の時だ

内閣官房参与
松本歯科大学常務理事
特命教授 飯島 勲

今月号は『プレジデント』7月5日号「リーダーの掟 飯島勲」より、岸田文雄首相のフランス・ブラジル・パラグアイ訪問についての記事を要約して紹介します。

久しぶりに週刊誌に登場してしまつた。「週刊新潮」に掲載されたゴールデンウィーク中の首相や閣僚の外遊に対する批判記事の中で、首相の海外訪問に同行する私の「トリセツ」なるものが取り上げられていた。今回の岸田文雄首相のフランス・ブラジル・パラグアイ訪問において、私が外務省から特別待遇を受けていたというものだ。

同誌によると、訪問先で公式日程の参加予定がない場合は大使館員が私の世話をしないといけないとか、喫煙所の案内が必要とか、外務省が私の対応に苦



ブラジルのルーラ大統領（右）と飯島氏

隊間協力円滑化協定（R A A）の交渉開始に合意したほか重要鉱物分野の協力に関する「日仏共同声明」の署名、「日仏高速炉開発協力に関する一般取決め」の更新といった重要なテーマが取り上げられた。

フランスでの日程を終えると、今度は南半球に移動。ブラジルでも、首脳会談、サンパウロ大学でのスピーチ、日・ブラジル・ビジネスフォーラム出席、日系社会歓迎式典出席等盛りだくさんなスケジュールをこなした。

ルーラ大統領との首脳会談での議題は多岐にわたったが、特に環境・気候変動や持続可能な開発に関する協力の進展を紹介したい。「日・ブラジル・グリーン・パートナーシップ・イニシアティブ（G P I）」を立ち上げたほか、日本はアマゾンの森林破壊の防止を重視し、これまでも、アマゾンの違法伐採対

策や、ブラジルの推進する劣化農地改良事業など持続可能な農業の実現に向け協力を表明。また、ブラジルが高いポテンシャルを有するバイオ燃料・合成燃料などの脱炭素燃料とハイブリッドエンジンなどの日本の高性能なモビリティ機器を組み合わせて、カーボンニュートラルの実現をめざす新たな国際枠組みとしてIS F M（アイスファム）も立ち上げた。

個人的には日系社会の式典で、2004年に小泉元首相がブラジルを訪問した際のイベントに参加していた日系企業の経営者との再会がうれしかった。

ブラジルの日系人社会は、世界最大の規模で、人口はブラジル全人口の約1%だが、経済規模は約1割にも及ぶらしい。大変な苦勞の末、現地で成功した方々には本当に頭が下がる思いだ。パラグアイでは、ペニヤ大

統領も出席して行われた「日・パラグアイ・ビジネスフォーラム」が印象的だった。そんなわけで、今回も岸田首相の外遊は成功だったのだが、例によって支持率上昇にはつながっていない。何をやっても評価しないメディアの姿勢にも問題はあると思うが、やはり「外交の岸田」にはもつと挑戦してほしいと思っている。

まず、北朝鮮の拉致問題の対応。首相直轄のハイレベル協議をめざすと宣言して約1年。そろそろ目に見える進展が欲しいところだ。もう一つ岸田首相に期待したいのは、ロシア・ウクライナ紛争の調停役だ。G7の中で、ウクライナへの軍事的支援をしていない日本の首相こそが、調停役としてふさわしいと思う。これは夢物語ではない。

岸田首相なら、きっとできるはずである。

創立者の「視点」



大学誌編集主幹
特任教授 笠原 浩

6月4日から10日は「歯と口の健康週間」ということで、本年も「歯を見せて笑える今を未来にもスローガンとして、各地の歯科医師会などがさまざまな行事に取り組んでいた。

歴史を遡れば、1928年に日本歯科医師会が「6（む）4（し）にちなんで「虫歯予防デー」を実施したのが始まりで、戦時中の中断はあったが、「口腔衛生週間」「歯の衛生週間」、2013年からは現在の名称で、口腔衛生の啓蒙活動が続けられてきている。

類似のものとして、3月3日は「耳の日」、8月7日は「鼻の日」、10月10日は「目の愛護デー」（語呂合わせではない。一〇一〇を2行書きすると眉毛と目の形になる）などがあり、それぞれの領域での健康の重要性を呼びかける活動が行われている。「虫歯予防デー」はそれらの嚆矢であった。

今年も恒例となっている「親と子のよい歯のコンクール」「歯に良い料理の試食」、動物園のカバの歯磨き…といった行事が、マスコミなどで全国各地から伝えられてきている。

名古屋市千種区では、本学OBの糸山 曉先生が中心となつて準備を進められてきた、千種区歯科医師会と千種保健センター共催「令和6年度 歯と口の1日健康センター」が、歯科衛生士専門学校や学生さんたちの活躍もあって大盛況となったことだ。

こうした行事も目的は、言うまでもなく「歯科疾患の予防に関する啓発活動」であり、口腔衛生思想の普及にある。しかしながら、昔の歯科医師の中には、本気でムシ歯を減らそうとは考えていなかった人もいたようだ。というのは、かつて「ムシ歯の洪水」と苦悶していた筆者には、歯科医師会のエライさんからは「オレたちのメシの種のムシ歯があんまり減ってしまつても困るんだよね」などと、地域での予防活動を妨害された苦い思い出が、いくつもあるからなのである。

新しい歯科医療を求めて1

にもかわらず、良識ある多くの歯科医師はこうした啓発活動を展開して、口腔衛生思想の普及に努め、各種の予防処置や口腔清掃習慣、定期検診の定着などを実現させてきた。

半世紀前の「ムシ歯の洪水」を駆逐して、今や子どもの歯の健康を「世界一」と誇れるまでになったのは、まさしく日本の歯科医療関係者の努力の結果なのである。

大戦後の結核が日本人の国民病で最大死因であった時代の「結核予防運動」に日本結核病学会の専門医の先生たちが先頭に立って奮闘され、見事にその脅威を一掃させた事実と同様に、世界の医学医療史に特別大書されるべき事実と言えよう。今こそ胸を張って言える。地域での口腔衛生の普及活動は、歯科医師の「メシの種」を減らすことではなく、むしろ歯科受診を促す営業活動だったのである。

御霊とご遺族に感謝 立派な歯科医師になることを誓う 第48回解剖諸霊位慰霊祭

6月8日（土）本館7階講堂にて第48回解剖諸霊位慰霊祭が厳粛に挙行されました。

1973年から開始された解剖学実習は51年間継続して展開されてきました。その間に1195人の方々が本学の歯科医学教育のためにご献体くださいました。この日の祭壇には昨年度の解剖学実習で学生たちが人体の構造と機能を勉強させていただいた13柱の御霊が祀られました。ご遺族並びに関係者、大学役員、教職員、1年生から



祭壇に向かい焼香する学生たち

3年生の学生が参列する中、大須賀直人学生部長による司会進行の下、曹洞宗 寶松山 西福寺ご導師衆の読経と共に中村浩彰学長補佐により、ご献体くださった御霊とご遺族の皆様に向けた感謝と哀悼の意が込められた祭文が捧げられました。続いて学生を代表し第3学年木ノ島旺君が解剖学実習を通じての学び、見返りのない愛情を注いでくださった故人ならびにご家族や関係者の皆さまの篤志に応えるために、医療への道を歩むものとして勉学に努力研鑽し立派な歯科医師となる誓いと感謝の気持ちを述べました。また、解剖学、組織学、病理学など教職員を代表し、私が、本学における解剖学をはじめとする歯科医学教育が多くのの方々のご理解とご支援で成り立っていることや長年にわたり継続した解剖学実習が展開できたことへの深い謝意に加えて誰からも信頼される歯科医師の養成に今後も尽力する決意を述べさせて頂きました。

慰霊祭式典終了後、ご遺族が待機される控室でご遺骨返還が執り行われました。担当した学生が感謝の気持ちを自身の言葉で伝え、お世話になった故人のご遺骨を返還させていただきました。ご遺族から「頑張つてよい歯科医師になつてください」と激励していただき、学生たちも身が引き締まる気持ちでご遺族の思いを受け留めていました。さらに大学墓地に移動し、納骨式も挙行されました。参列さ

れたご遺族からは担当した学生たちと対面し、声が直接聞けて感激したとの声も頂きました。慰霊祭の大学行事を通じ、学生たちは、多くの方々からの篤

志と大きな支えを改めて感じ、この経験が大きな成長を生み出していることを実感する一日となりました。

解剖学講座 教授 金剛英二

鷹股哲也特任教授がSWANプロジェクトで講演 五輪育成選手にマウスガードの重要性説く

長野県スポーツデンティスト協議会会長を務める鷹股哲也特任教授は5月21日（火）、未来の冬季オリンピックメダリストを育成する長野県スポーツ協会の「SWANプロジェクト」プログラムの一環として、長野市のホワイトリングにおいて中学生の育成選手14人とその保護者に向けて講演した。

「顎・歯・口のスポーツ時のケガ予防とマウスガードの効果」と題した講演で、最初に噛み合わせと運動能力との関係について解説した。中学生の定期



講演する鷹股特任教授

健康診断で得たデータとスポーツテスト（文部科学省基準）の結果を照らし合わせると、咬合力の高い生徒は全般に運動能力が高い結果が出ていることを紹介。「上下の歯の正しい噛み合わせは、スポーツの基本姿勢である直立時や動きの中での平衡バランスに極めて重要」と話し、結論として「日々の食事ですっかり噛める健康的な口の状態を維持・管理することは、身体と運動機能に關与する」と説いた。

また、スポーツにおける顎や口のケガの症例を示し、マウス

ガードの衝撃吸収性と装着効果についても言及した。マウスガードは運動パフォーマンスを上げるための口腔内装置ではないが、歯や口腔軟組織、顎骨・顎関節の傷害や頭頸部損傷などを防止し、自傷だけでなく他傷も防ぐ。その安心感から、スポーツに集中でき全力を注ぐことが可能な装置だとして、「歯科医院で作る、口の中で安定し異物感の少ないカスタムメイドのマウスガードを装着してほしい」と呼びかけた。

県スポーツデンティスト協議会としては今後もアマチュア・プロアスリートに対して歯科医

理事会報告

2023年度事業報告、決算等を承認

学校法人松本歯科大学の第210回理事会および第151・152回評議員会が5月30日（木）、創立30年記念棟3階会議室で開催され、2023年度事業報告ほか各議案を審議、いずれも満場一致で承認可決された。



事業報告を説明する廣瀬事務局長（右）

1. 歯学部

①歯学部教育の質の保証と向上
・進級判定、卒業判定ともに判定基準を明確にし、厳格な成績判定を実施した。
・学生生活満足度調査については、年1回実施し、学生生活の実態を把握することに努めた。調査結果は教授会で周知するとともに職員イントラネットで公表し大学環境の改善等に向けた基礎資料とした。

・各学年に学年主任と補佐を5〜7人程配置し、修学状況の把握、学習及び学生生活の相談に応じ、サポートした。また、科目・授業担当者にはオフィスアワーの設定を義務付け、授業等の質間に個別に対応した。

②退学者、除籍者の低減
・授業理解度を深めるためシラバスに明記して周知し、学生からの質問等に対応できるようにした。

・学生相談室に非常勤カウンセラーを配置し、月2〜3回、1回あたり2時間、年21回実施し、様々な心理的問題に対応した。また、必要に応じて学生部長、保健師、カウンセラー、学事室の間で情報交換を行い諸問題に対応した。

③標準修業年限内での卒業率の向上
・学生、保護者に対し学年主任・補佐を中心とした面談を実施し、学生生活や学習

の問題・正答を掲載し、4

方法に関する助言を行い、必要に応じて科目担当者との面談も実施した。

④現役学生の歯科医師国家試験合格率の向上
・厳格な成績判定、学年主任制度によるサポート体制の強化等、入学から卒業までの一貫したシステム整備により、第116回歯科医師国家試験の現役学生（新卒）の合格者は54人、合格率90.2％を達成した。

2. 大学院歯学独立研究科・総合歯科医学研究所

①大学院入学定員充足率向上
・大学院学生募集要項と願書等の出願書類は、PDF版を大学ホームページに掲載し、効率化を図った。

②大学院6年生と臨床研修歯科医に対し、6月に大学院説明会を実施した。

③2023年度に実施した入試による入学者は、秋期選抜が2人、2024年度春期入学が14人であった。

④大学院教育の実質化
・研究の初期・中間・最終に研究の進捗状況に合った発表会を設定し、研究に対する評価、助言、意見

等交換する機会を設定し、中間発表会、大学院研究科発表会を開催した。

③標準修業年限での学位授与の促進
・大学院生の指導は、複数教員指導体制とし、主指導教員は学位論文の作成着手から完成に至るまでの研究指導の主体的任務を果たした。

④大学教員、研究者の養成
・ティーチング・アシスタントとして大学院学生1人を採用し、教育・研究指導者となるためのトレーニングの機会を提供し、経済的な支援を行った。

⑤学位授与状況
・標準修業年限での学位取得は9人、論文提出による学位取得者はいなかった。

・松本歯科大学衛生学院
①社会のニーズを踏まえた歯科衛生士の育成
・第1学年より医療従事者の心構えを涵養し、戴帽式、登院前オリエンテーションを通して、医療人としての自覚、責任を認識させた。

・実習先の臨床実習指導者（歯科衛生士）と実習生連絡協議会を3回開催し、実習生

の積極的な診療参加のための指導体制を整備した。

②授業内容の改善
・授業の配当時間等について見直しを行い、2024年度に一部履修基準表の変更承認申請をする事とした。

③入学定員増・収容定員増に係る申請、届出
・定員増に伴う歯科衛生士養成所校舎変更計画書（提出期限3月末）を2023年2月14日に長野県に提出し、6月19日付けで関連規則等の基準を満たしている旨の通知を受けた。

・変更承認申請書の審査に係る実地調査が2023年12月15日に行われ、2024年1月15日付で長野県知事より承認を受けた。

④入学定員の確保と優秀な入学者の確保
・企業主催の進学相談会に34回参加し、高校での進学相談会は20会場で行い、参加者は131人であった。

・一日体験入学については、3回開催した。

・2024年度入試の募集定員は100人で、全5回入試を行い、入学定員充足率は84％であった。

（Ⅱ）病院・診療

1. 病院

（1）歯科部門
・医師、歯科医師の認定医、指導医、専門医について取得状況調査を行い、診療科長については、病院入り口の診療科案内に記載した。

・歯科衛生士の業務効率化、安全性及び収益の向上を図る為に、クラークと消費・減菌専従スタッフを導入し、歯科衛生士のスキルアップ、モチベーションアップへと繋げた。

・県立こども病院の入院患者への歯科検診を開始し、訪問診療及び外部施設における入所者への口腔衛生管理指導の充実を目指し、新たに県立こども病院、一之瀬脳神経外科病院への訪問診療の体制を構築した。

（2）医科部門
・病院長、副病院長、事務長と各診療科長が診療収入、支出の見直し検討を行い、前年と比較して経費率の改善を計った。

・健診センター受診者数の増加のための改革案を作成

2. 診療

・病院全体の患者数は前年度比0.7％増、診療実績は前年度比5.0％増となった。

（Ⅲ）管理・運営
（1）施設・設備の維持管理
・安全面に配慮し、必要なのから工事・修繕を行った。節電対策として、実習館1階、30年記念棟2階廊下、カフェテリアへ照明器具のLED更新工事を行った。

・2022年から太陽光発電による電力自給が開始され、2023年4月から7月までの電力目給を含め、前年度比より8.3％の削減となった。

（2）図書館
・日本医学図書館協会北信越地区会研修会を当番館として開催し、外国雑誌の現状と今後の動向分析について研修を行った。

・外国雑誌の契約、提供方法等学内外のホームページを通じて広報を行った。

九州大学大学院・中村誠司特任教授
「IgG4関連疾患の病態解明について」講演

3月26日（火）、総合歯科医学研究所セミナーにおいて、第423回大学院セミナーが開催された。

講師には九州大学大学院歯学研究科特任教授の中村誠司先生をお迎えし、「IgG4関連疾患の病態解明を目指した免疫学的アプローチ」という演題でご講演いただいた。

IgG4関連疾患は、高IgG4血症と病変部への著名なIgG4陽性形質細胞浸潤を特徴とする

疾患で、本学の川茂幸特任教授による自己免疫性腭炎で高IgG4血症が見られたという発見に端を発する、わが国から発信された新しい疾患概念である。中村先生はこれまで多くのシエーグレン症候群の臨床的・免疫学的研究を行ってこられた経緯から、IgG4関連疾患とシエーグレン症候群の比較研究の観点からご講演いただいた。

IgG4関連疾患の罹患臓器の一つである唾液腺に浸潤する免疫



講演する中村特任教授

細胞のシングルセル解析による発現遺伝子の解析、パスウェイ解析によるサイトカイン・細胞レセプターシグナルの網羅的解析、T細胞レセプターのレパト

ア解析、唾液腺に浸潤する細胞の網羅的定量解析等から、シエ

ーグレン症候群は自己免疫疾患であるが、IgG4関連疾患は感染症またはアレルギーが原因であるというエビデンスを支持するものである。

今回、中村先生からIgG4関連疾患の発症に関する詳細なメカニズムについてご講演いただき、本学における今後の研究にとって非常に有意義な機会を得た。

（微生物学講座 教授 吉田明弘）

令和5年度資金収支計算書および令和6年度予算書
（令和5年4月1日～令和6年3月31日）（令和6年4月1日～令和7年3月31日）

（単位 円）		
収入の部		
科 目	令和5年度決算	令和6年度予算
学生生徒等納付金収入	2,129,299,700	2,155,000,000
手数料収入	19,215,684	18,500,000
寄付金収入	25,460,000	8,000,000
補助金収入	219,364,095	230,000,000
資産売却収入	1,664,245,496	0
付随事業・収益事業収入	1,643,078,791	1,700,000,000
受取利息・配当金収入	92,706,946	329,560,000
雑収入	72,759,501	67,000,000
借入金等収入	0	0
前受金収入	254,302,500	197,400,000
その他の収入	1,249,808,545	1,291,457,000
資金収入調整勘定	△ 440,310,895	△ 430,118,000
前年度繰越支払資金	2,587,419,104	1,628,890,454
収入の部合計	9,517,349,467	7,195,689,454
支出の部		
科 目	令和5年度決算	令和6年度予算
人件費支出	2,451,428,734	2,510,000,000
教育研究経費支出	1,475,962,129	1,557,000,000
管理経費支出	733,138,241	906,000,000
借入金等利息支出	5,124,911	4,210,046
借入金等返済支出	0	0
施設関係支出	106,881,454	520,000,000
設備関係支出	176,229,932	706,000,000
資産運用支出	2,000,001,052	0
その他の支出	1,511,876,621	1,303,072,000
〔予備費〕		
資金支出調整勘定	△ 329,370,388	△ 765,671,000
翌年度繰越支払資金	1,386,076,781	455,078,408
支出の部合計	9,517,349,467	7,195,689,454

貸借対照表
令和6年3月31日

（単位 円）		
資産の部		
科 目	本年度末	前年度末
固定資産	14,087,712,756	13,807,355,439
有形固定資産	12,310,247,244	12,674,612,531
土地	3,908,075,598	3,908,075,598
建物	6,209,211,351	6,471,786,881
その他の有形固定資産	2,192,960,295	2,294,750,052
特定資産	105,669,965	105,668,913
その他の固定資産	1,671,795,547	1,027,073,995
有価証券	1,513,638,504	872,145,200
長期貸付金他	158,157,043	154,928,795
流動資産	1,715,601,967	2,938,408,061
現金預金	1,386,076,781	2,587,419,104
その他の流動資産	329,525,186	350,988,957
資産の部合計	15,803,314,723	16,745,763,500
負債の部		
科 目	本年度末	前年度末
固定負債	1,052,694,556	1,111,726,876
流動負債	902,472,494	968,881,034
負債の部合計	1,955,167,050	2,080,607,910
純資産の部		
科 目	本年度末	前年度末
基本金	41,181,057,954	40,958,379,200
繰越収支差額	△ 27,332,910,281	△ 26,293,223,610
純資産の部合計	13,848,147,673	14,665,155,590
負債及び純資産の部合計	15,803,314,723	16,745,763,500

Alumni News

松本歯科大学校友会

岐阜県支部

太田直哉先生が「睡眠時無呼吸症候群」について講演



ビデオメッセージを見る岐阜県支部の先生たち

が私たちを出迎えてくれました。

桜の花が満開となり晴天にも恵まれた4月7日(日)、令和6年度松本歯科大学校友会岐阜県支部総会・講演会・懇親会を、多治見市「日本料理 澤千」にて開催しました。

総会は恩田眞司支部長(7期生)の挨拶で始まり、太田直哉

多治見市は、美濃焼発祥の地で、「暑さ日本一」を争うくらい暑い街でもあります。タウンキャラクターの「うながっぱ」

新教授紹介 (2024年4月1日付就任)

歯科矯正学講座

教授 川原 良美



川原 良美 教授

このたび、歯科矯正学講座教授を拝命いたしました。重責に身の引き締まる思いであります。が、伝統があり、また自分にとってゆかりの深い本大学で仕事ができることを大変光栄に存じております。まだまだ自分自身が未熟であり、成長しなければなりませんので、本学関係者の皆様にご指導いただきたく存じます。

歯科矯正学とは、顎顔面頭蓋と歯列における成長発育や加齢変化を理解し、不正咬合を予防・抑制・回復することにより形態と機能の調和とその安定性を保ち、患者のQOLの向上に寄与できるような研究と技術を追求する歯学の一分野です。この特性により、矯正歯科治療は専門的知識と技術が求められます。矯正歯科治療を適切に行うために、また他の医科・歯科専門領域と連携し様々な領域の疾患に対して総合的な治療を提供するために、講座全体で今後より一層努力していく所存です。一方で、歯科医師は知識・技術のみならずコミュニケーション能力を含めた豊かな人間性を備えなければなりません。この

会計報告のあと名簿作製の件やこれからの校友会への会員参加・終身会員についても協議されました。

続いて「閉塞性睡眠時無呼吸症候群 歯科での対応」と題して講演会を行いました。講師の太田会員(太田歯科医院院長)は、「日本睡眠学会歯科専門医」

で、日常の診療の中で症例として多くはない「閉塞性睡眠時無呼吸症候群」に日々取り組んでおり、太田会員がこの疾病に関わった経緯・症状・対処方法・装置の作製方法等、興味深い講演内容でした。「どんな質問もお受けする」という演者の熱い講演に質疑応答も活発で、自分も取り組んでみようという会員は熱心に聴講しました。

その後場所を移して、懇親会が、高橋雅之専務理事(8期生)の司会のもと恩田支部長の挨拶で開会しました。来賓として岐阜県歯科医師会の阿部義和会長、近藤万知専務

理事、県歯連盟の長瀬好和会長、いつも懇意にして頂いている朝日大歯学部同窓会岐阜県支部の前田忠利会長と役員の先生方、愛知学院大歯学部岐阜県同窓会の松原充直副会長と役員の先生方、松岡大校友会本部より矢ヶ崎雅会長、原田寿久専務理事をお招きしました。

これは現代社会の急速な変化に対応するための基本としてますます重要であると認識されています。矯正歯科治療をとりまく社会でも、医療技術の進歩に伴い、新たな医療ビジネスによる社会問題やトラブルとなるケースが増加しております。このよう

川原 良美 教授 略歴

1994年 3月	日本大学理工学部建築学科卒業
1999年 3月	日本歯科大学歯学部卒業
2000年 4月	昭和大学歯学部歯科矯正学講座 員外助手 (2005年3月まで)
2011年 4月	松本歯科大学大学院歯学独立研究科 修了 博士(歯学)
2007年 4月	松本歯科大学病院育成期口腔診療部門 診療講師
2018年 4月	松本歯科大学歯科矯正学講座 講師
2019年 12月	松本歯科大学歯科矯正学講座 准教授
2024年 4月	松本歯科大学歯科矯正学講座 教授

山梨県支部

会の一層の発展に期待 第37回定時総会報告

4月20日(土)、松本歯科大学校友会山梨県支部第37回定時総会が、シャトレゼホテル談露館にて行われました。

新入会員1人を含む合計20人

発声で久しぶりの御来賓を交えた懇親会がにぎやかに始まり、おいしい料理に舌鼓を打ちながら笑い声や笑顔で包まれ盛会となりました。

矢ヶ崎会長、原田専務理事も同窓との再会をととても楽しんでみえました。

楽しい宴もあつという間に過ぎ、来年度の岐阜市での再会を誓いつつ小川真奈副支部長(8期生)のお礼の言葉で閉会となりました。

今年度の総会も、先生方のおかげで大変有意義な時間となりました。

の先生方が参加されました。

若尾孝一先生(7期生) 司会の元、支部長の宮田一彦先生(6期生)の挨拶に始まり、議事においては、議長に選出された原俊先生(2期生)の円滑な進行により全ての議案が無事承認を得ました。

そして、新入会員の中村雄貴先生(3期生)に記念品が贈呈され、自己紹介と今後の抱負について語って頂きました。

若い先生が増え、より一層の校友会の維持発展が期待されます。又、能登半島地震の義援金の議題が上がり、先生方の真剣な話し合いの後、全員一致で可決されました。

この取り組みを今後も継続・発展させて、リサーチマインドと病人・他者への共感と思いやりを兼ね備えた真の歯科医師の育成に微力ながら尽くす所存です。

今後とも、皆様のご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



田所 治 教授

解剖学講座

教授 田所 治

このたび、解剖学講座教授に就任させていただくことになりました。学内および交友の皆様

の中にいては、コミュニケーションスキルを含めた人としての総合力が求められます。創立者の言葉「良き歯科医師となる前に良き人間たれ」、この本学の教育理念を銘記し、まずは自分自身が勉強し、学生や医局員とともに成長していきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

人体解剖学は、正常な人体を隅々まで解剖し、正確な観察によって人体各部を言語化ないし情報化させ、医学・歯学の基礎知識を提供するとともに、臨床における諸問題の解明に寄与する学問、すなわち、教育と研究が一体化した学問です。教材が我々の先輩の遺体そのものである解剖学実習には、教員としてだけでなく一学生として常に真剣に取り組み、新たな知見が得られた際には学生諸君を巻き込んで学会発表や論文発表を行って参りました。

田所 治 教授 略歴

1995年 3月	日本大学松戸歯学部卒業
1997年 12月	ノルウェー王国・University of Bergen 医学部解剖学・細胞生物学講座 留学
1999年 3月	日本大学大学院 修了 博士(歯学)
1999年 4月	松本歯科大学口腔解剖学第一講座 助手
2001年 11月	松本歯科大学口腔解剖学第一講座 講師
2013年 11月	松本歯科大学口腔解剖学第一講座 准教授
2024年 4月	松本歯科大学解剖学講座 教授 献体登録(第819号)

人事異動

6月1日付

小林 博一(准教授(歯学部整形外科))
小野 佑夏(病棟看護師室看護師)
馬留みのり(歯科衛生士室歯衛生士)



山梨県支部の先生たち

7月行事予定

- 2日(火) II期試験(第6学年)
- 3日(水) 秋期入学試験(大学院)
- 6日(土) 塩尻警察署安全安心講習会(歯学部)
- 16日(火) 26日(金) 定期試験(第4学年)
- 19日(金) SD研修会
- 27日(土) 留学生選抜(A) 編入学選抜(A) 一日体験入学(衛生学院)
- 28日(日) 一日体験入学(歯学部)
- 30日(火) 留学生選抜(A) 編入学選抜(A) 合格発表

Matsumoto Dental University SNS Information



LINE



X



Instagram



facebook